



ブックマ

## 『72時間いきぬくための101の方法』

11 住み続けられる  
まちづくりを



### ～子どものための防災 Book～

なつ みどり ちよま ねんしよほん どうしんしゃ か だししよか (3のしよほん)  
夏 緑 著 2012年初版 童心社 貸し出し可(3の書棚)



ひがしにほんだいしんさい  
東日本大震災からちょうど10年がたちました。

がっこうとしょうかん  
学校図書館の本を読むと、とてもよくわかりますが、にほんは実に地震が多い国です。地震が起こるしくみは、4類の科学の本を読みましょう。そして、地震が起きた直後から身を守るためにできることについて書かれた本は、3類にたくさんありますので、こちらも読んでみましょう。

この「72時間いきぬくための101の方法」には、みなさんが「もしものとき」に実践できるヒントがたくさん書かれています。たとえば、地震発生直後、10秒にできることを実践することで、そのあとに生き残れる確率がぐんと上がるといわれています。

ねんせい こくご たんげん  
4年生が国語の単元で「もしものときにそなえる」という学習を終えて、がっこうとしょうかん  
学校図書館に、調べたことを展示してくれました。ぜひ、それを参考にしながら、地震や津波による被害を少しでも少なくして、みなさんのかけがえのない「命」を守るために、そなえておきましょう。

がっこうとしょうかん  
学校図書館では、「東日本大震災から学ぶこと」として、ICT機器を使って、この10年をふりかえり、小学生のうちにできることを真剣に考える時間をつくっています。

たとえば、「自分の住所をいえるようにしておく」「避難所に移動するときに必要な物をそろえておく」「家族とはぐれたときに、どうするか、はなしあっておく」などは、今すぐにできることです。

また、海沿いにある私たちの学校は「津波」の被害をうける可能性があります。「津波警報」がでたら、どのように逃げるのかなども、クラスのなかで確認しておく必要がありますね。

とうほくちほう  
東北地方には、「つなみてんでんこ」という言葉があります。「つなみがくるとわかったら、自分の命をまもるために、とにかく、てんでんばらばらになってかまわないから、にげろ！」という意味だそうです。

とても大事なことですね。みなさんも、ぜひ、心にとめておきましょう。

つぎ  
次の「本日のおすすめの本」は新学期になってから、発行します。

